

◇令和4年／2022年9月号 第103号◇

会 産経国際書会 報



フジサンケイグループ

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高円宮妃殿下から「第39回産経国際書展」高円宮賞を受ける高頭子翠副理事長（8月18日、明治記念館）



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博



産経国際書会
理事長
風岡 五城

新聞社と書会、共同して 取り組む

東京都美術館で開催いたしました第39回産経国際書展は、コロナ禍にもかかわらず、皆様のお力添えを賜り、無事に終えることが出来ました。

今回から全館貸し切りとなり、8月半ばの会期に移った関係で来場者が増え、展示替えも無くなるなど、多くの皆様から好評をいただきました。

出品数は、本展が5,521点と昨年より300点近く増え、コロナ前に徐々に近づいて参りました。ジュニア書道コンクールも昨年を1000点強上回る11,741点と2年連続1万点を超えました。

贈賞式には高円宮妃久子さまをお迎えし、高頭子翠副理事長に高円宮賞が授与されました。また、韓国書壇から36点出品いただき、贈賞式にも各団体のトップ10名が来日し、国際の名にふさわしい内容となりました。

来年はいよいよ40回展を迎えます。現在、風岡理事長をはじめ、執行部の先生方が将来の書会の礎となるような記念事業の構築を進めています。どうか皆様方にもご協力をお願いしたいと思います。

6月、産経新聞社では5年ぶりに社長が交代しました。飯塚浩彦代表取締役社長が会長に、近藤哲司専務取締役が社長に就任しました。書会会長は引き続き、飯塚が務めます。新聞社は新たな体制となりますが、これまで同様、書会と共同して取り組んでいくことは変わりません。

皆さん、どうぞお体に気を付けられ、益々活躍されます事を心よりお祈り申し上げます。

40回記念展を 実りのあるものに

令和4年の総会において、書会執行部は、高橋照弘氏が理事長代行に昇格し、また新たに副理事長には建部恭子、町山一祥の二氏が加わり、新体制でのスタートとなりました。

コロナ禍を乗り越え、そして来たる40回記念展を実りあるものにするには何が出来るか、何をしなければならないかについて検討を重ねてきました。その結果、以下の3件を柱に記念事業を進めていくことになりました。

まず一つは本展において「産経先達の書」(仮)の展示です。産経国際書展創立に、あるいはその後の発展にご尽力をいただいた諸先生の作品を展示します。現在の私たちがその志を正しく受け継いでいるのか、今一度見直し新たな発展に繋げていく機会にしたいと思います。

二つ目は令和6年4月20日から25日に上野の森美術館で開催の「大作展」(仮)です。作品の大きさは横3メートル程度で全館を使用します。出品者は副理事長以上の役員と審査会員以上の自薦、他薦を含めて約70点を見込んでいます。詳細は後日ご案内します。意欲的にご参加いただけることを切望しています。

三つめは日韓交流展の充実です。これまでも小規模に行ってきましたが、前面に出して一層の充実を図ります。

ご理解、ご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

第39回 産経国際書展

8月14日(日)～8月21日(日)
東京都美術館

第39回産経国際書展は、3年目のコロナ禍、第7波のなかでの開催となった。今年は昨年よりも3週間ほど遅い、お盆期間中の8月14日から8月21日まで、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で開かれた。総出品数は昨年より多い5,521点であった。

審査会は5月31日から6月2日まで、東京都台東区の東京都立産業貿易センター台東館で行われ、高円宮賞、内閣総理大臣賞はじめ特別賞、入賞、入選などが総勢54人の審査員により選ばれた。今年の特別選考会は、岡部昌幸(群馬県立近代美術館特別館長)、鍋島稲子(台東区立書道博物館主任研究員)の2氏を加えた11人で行われた。

そして、特別賞、特選、秀作、入選作品をはじめ産経国際書会審査会員、無鑑査会員、会友の作品2463点が展示された。入選と会友は東京展該当地域のみの展示だが、すべてが掛替なしの通期展示となった。臨書など複数作品も通期で展示され、お目当ての作家の作品をいつでも見ることができるようになった。

今年は『書』で結ぶ世界と日本』企画での交流がきっかけでモンゴル国大使館賞が新設された。モンゴルにはモンゴル文字による墨の書道文化がありユネスコ無形文化遺産にも登録されている。これからも多くの国々との交流を広げ、賞を増やしていきたい。(事務局)

【来年度】第40回記念展

会期 令和5年8月14日(月)から8月20日(日)

○すべて通期展示となり、展示替えはありません

会場 東京都美術館

ロビー階と1階の第1～第4展示室と2階第1、第2室(合計10室)

贈賞式・祝賀会 展覧会会期中に明治記念館にて実施予定

※同展会場内で新規特別展示を企画中＝「産経先達の書」展(仮称)

既存企画＝「特別色紙展」、「韓国書壇」特集展示

※2023産経ジュニア書道コンクールも同会期8/14～8/20、東京都美術館2階第3、4室(計2室)での実施を予定しています。



開会式：左から風岡五城理事長、竹澤玉鈴名誉顧問、高認諷(ゴ インスク)ガムルハングル書会会長、飯塚浩彦会長

活気を取り戻し熱気溢れる

実行委員長 高橋照弘



現在未だコロナ禍中にあり終息の兆しは見えないでいます。厳しい現実のなかでの第39回産経国際書展は東京都美術館にて盛会裏に終了することができました。会員諸氏のご協力によるものであることは申すまでもありません。実行委員長としてこの場をお借りして御礼を申し上げます。

本年も昨年同様各部係員、審査員の出席について懸念していたところですが、杞憂に過ぎました。コロナによって書会の体力が少しずつ消耗していく現状を憂慮した会員諸氏が勇断をもって挙って出席となり、会場全体は従前の活気を取り戻し熱気溢れたものとなりました。搬出入部は審査全期間を通し朝から夕まで片時も場所を離れることなく審査が円滑に進行できるよう苦勞され、陳列部は部門別大小作品をいかに効果的に陳列するか工夫され、会場係は来館者に親切で丁寧な対応が頗る好評でありました。

第39回展は事務局の多大なご尽力により都美全館を借りることができたことは画期的な快挙です。従前は前後期展示替えを余儀なくされ展示期間の違いにより来館者に一部混乱がありました。全館展示は来館者の便宜を図ることとなり、これに係る時間、人、費用等の合理化を進めることに繋がりました。

全館貸切りは今後書会の活動に益するところ大なるものがあり、書会を前進飛躍する原動力となることを確信しています。

来年は40周年の記念展です。会員の総力を結集させて成功させましょう。



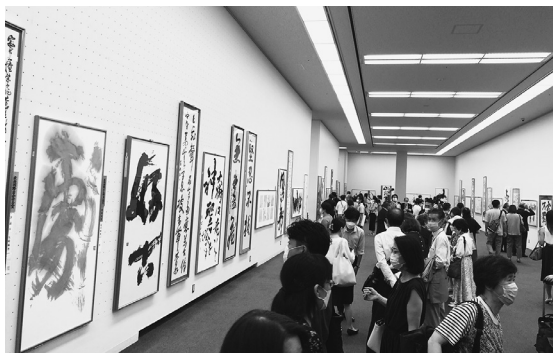
5月31日から6月2日に行われた審査会



審査会を支える搬出入部作業



8月13日と14日の午前に行われた陳列作業



8月14日午後1時オープン、賑わう会場



第39回展の審査を終えて

審査本部長 村田白葉

令和4年を迎えても、コロナウイルスは変異を繰り返し私達の生活を脅し続けています。そんな状況の中、「第39回展審査会」は5月31日(火)～6月2日(木)の3日間にわたり、「東京都産業貿易センター台東館」において、万全の感染予防対策を取り、開催されました。

審査員の先生方は、漢字、かな、現代書、臨書、篆刻・刻字、U23の各部で総勢54名のご出席を頂き、出品

数も前回より増加しており、熱気あふれる審査会となり、無事終了いたしました。そして、6月2日の特別選考委員会は11名の選考委員により、厳正に審査され、各賞が決定いたしました。

審査員の先生方には、審査会の運営等に、格別のご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。そして、審査事務局、搬出入部の委員の先生方には、多大なご協力を頂き、心より厚く御礼申し上げます。



多くの来場者で賑わう

東京部会長 武富明子

令和4年8月14日に第39回展が開幕しました。本年は3年ぶりにテープカットが行われ、開幕時、受付は大変混雑し対応に追われました。コロナ禍でありながらも、展覧会場は会期中、なべてご来場者が多く賑わいましたことが、ここ2、3年に比べますと大きな違いでした。またもう一つは、今年から会場の部屋数が増えたお蔭で、掛替なしで東京展の作品が全て通期展示となりましたことです。特別出品の4名の方々もご

来場下さり時間をかけてご覧くださいました。

また、贈賞式では高円宮賞の高頭子翠先生と退院後間もないと言うことで車椅子で登壇されました内閣総理大臣賞の今田篤洞先生のお二人のご挨拶は力づくよく印象的でした。この先いつか、贈賞式の後の祝賀会も華やかに行われる日が来ることを願っております。受付担当の東京部会員とお手伝い下さった会員の皆様のお蔭で無事に終了しました。心から感謝申し上げます。



三密を避けるため少数精鋭で

搬出入部長 磯邊哲舟

今年の審査会は東京都立産業貿易センター台東館6階で行われ、それと同時に作品の搬入搬出事務も少数精鋭で始まりました。今回は、三密を避けるため感染防止のマスク着用は勿論のこと事務局が用意してくれた数々の予防対策をしての作業となりました。

表具店から提出された作品と、一覧表の氏名等を

照合し、無事審査部へ送付することができました。今年のスタッフは10名、10年前と比べると約半数となりましたが、スタッフとアルバイトそして各表具店のご協力のおかげで無事終了できたことにホッといたしました。それも事務局長をはじめ事務局の方々の細心の注意や心くばりのおかげと心より感謝申し上げます。



展示替えなしの展示

陳列部長 山本晴城

今年は、展示会場が2部屋増えました。全ての展示対象作品を一堂に展示。そして、陳列は8月13日と14日の午前中というお盆の真っ最中でした。部屋数が増えて展示作品の数が増えた事で時間内に展示が終わるか心配しましたが、無事、開幕を迎えることができました。陳列部のベテランの先生と今年から陳列に参加

された先生方、そして幹部の先生方が力をあわせ、ご尽力いただいたおかげです。ここに深く感謝申し上げます。

今回の展示は全作品が通期展示でしたので、同じ作者の2点目の臨書作品などを同じ展示フロアに配置し、近くで鑑賞できる様に工夫をしました。今後もよりよい展示を目指してまいります。



図録を作り終えて

図録部 副部長 岩村恵雲 青木錦舟

第39回本展の図録は異例の事態となりました。長年図録部を牽引してこられた今田篤洞部長が体調を崩され、図録会議に出席できなかったのです。

今までは今田先生のご指導のもと本展及び新春展の図録校正において、少数精鋭でベテランと新人がチームを作り効率良く作業を進めてきました。校正の作業は限られた時間の中でミスは許されないという気構えで行いますので、毎回緊張します。

今展も今田先生の意をそれぞれが胸に刻み、真摯に取り組みました。単なる校正だけでなく図録全体のデザインから写真の配置、濃淡、多字数作品の写真の解像度を上げることを考えてこられましたのも、偏に今田図録部長、事務局、書会幹部の先生方のご支援あればこそです。

今田先生のご健康も回復されたとのことで、快気祝いと受賞の内祝いをしたいと部員一同考えております。

第 39 回 産経国際書展 特別展示

【韓国書壇・特集展示】

昨年 8 点の展示だった韓国書壇の代表作家紹介は今年 36 点を一気に紹介することとなった。韓国書芸は、漢字、ハングル書芸、文人画、篆刻、書刻(刻字)、モググルシ(カリグラフィ)など 6 部門がある。そして書壇は、「韓国美術協会」「韓国書芸協会」「韓国書家協会」の 3 つの公募団体に集約されている。今回の招待作家は、書壇の最高指導者や 3 団体の理事長と書芸 6 部門の会長、理事長。

バラエティに富んだ韓国書芸は刺激的だった。また、代表団 10 人が来日、本展会場と贈賞式に参加、日本側と交流を深めた。

【特別色紙展】

高円宮妃殿下から「薬」と「氣」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催。色とりどりの色紙 55 点が飾られた。

【芸能人の書】

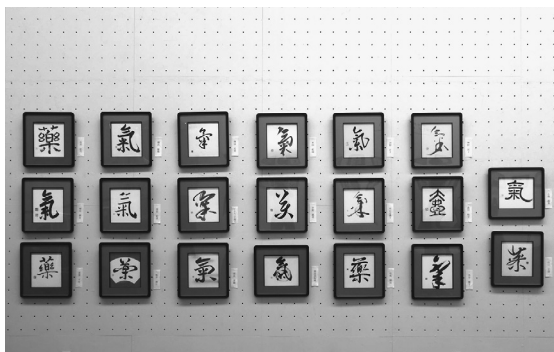
中山秀征さんは力強く「翔」と書き、岡部まりさんは、かすれを生かして「浄風」と軽やかに書く。松村雄基さんは「長恨歌」を切々と書き上げ、藤田三保子さんは自作の俳句を画面いっぱいに表現した。



韓国書壇をリードする代表作家の作品



今年の特別出品作品(左から岡部まり、松村雄基、藤田三保子、中山秀征の各氏)



特別色紙展 御題は「薬」と「氣」

第39回 産経国際書展 贈賞式



飯塚浩彦会長の挨拶



高円宮妃殿下のお言葉



高円宮妃殿下と一緒に（高頭子翠さんとご家族）

39回 産経国際書展 贈賞式



今年から創設の「モンゴル国大使館賞」を受賞する近藤豊泉さん

全国的に新型コロナウイルス感染症の第7波が感染急拡大する中、8月18日（木）、会場を3年ぶりに東京都港区の明治記念館に戻し、高円宮妃殿下をお迎えして「第39回産経国際書展」贈賞式を開催しました。開催にあたっては、感染症対策に十分に気を配り、公募、会友を対象とした第1部、無鑑査会員、審査会員を対象とした第2部と、受賞者を分散しての

実施としました。今回も祝賀会は中止とし、代わりに高円宮賞や内閣総理大臣賞受賞者など上位受賞者と妃殿下の懇談会を行い、各々が作品の見所や作品制作の苦労話をされ、楽しく時を過ごされました。

また、今年から審査会員役員を対象に「モンゴル国大使館賞」が贈られることになり、専管理事の近藤豊泉さんが受賞しました。

高円宮賞

高頭子翠 副理事長

すべての皆様に感謝!!



喜びの言葉を述べる高頭子翠さん

この度は大変立派な名誉ある高円宮賞を頂き身にあまる光栄と心より感謝申し上げます。

受賞のお知らせを頂戴致しました時は、戸惑いと喜びが錯綜し御礼の言葉さえ覚えておらずシドロモドロの受け答えになっていたと思います。

贈賞式では妃殿下の温かな私の書活動の細やかなお話や感想やらをお優しいお言葉と眼差しをいただき胸が熱くなりました。

この受賞に際しましては、コロナ禍で感染リスクに対応しながら賞の選考にあたられました特別選考委員の先生方、恩師、支えて下さった書友の皆様、書会や関係者の皆様方の力強い御支援の賜と厚く御礼申し上げます。

小さい頃から字を習い書くことが好きでさまざまな場面を展開しながらここまで続けてこられました。周囲の方々の暖かい励ましであり厳しい御指導を頂いた結果と過去を振り返りますとつくづく感慨深くすべてに感謝の気持ちで一杯でございます。

しかしこれからの書作こそ出発点と考え、前向きに自分の思いを一作一作に投影することが出来ますように心おきなく精進してまいりたいと思います。



「好古」

楽しみながら苦しみながらの作品づくりになるかと思います。自然体で書けたらそれ以上のことはないと思います。私に与えられた大きな「縁」を大切にし、産経新聞社、書会の皆様に感謝し新たな目標に向かって努力してまいります。今回の感激は忘れません。誠に有難うございました。

内閣総理大臣賞

今田篤洞 副理事長

師の教えに導かれ、産経国際書展と共に



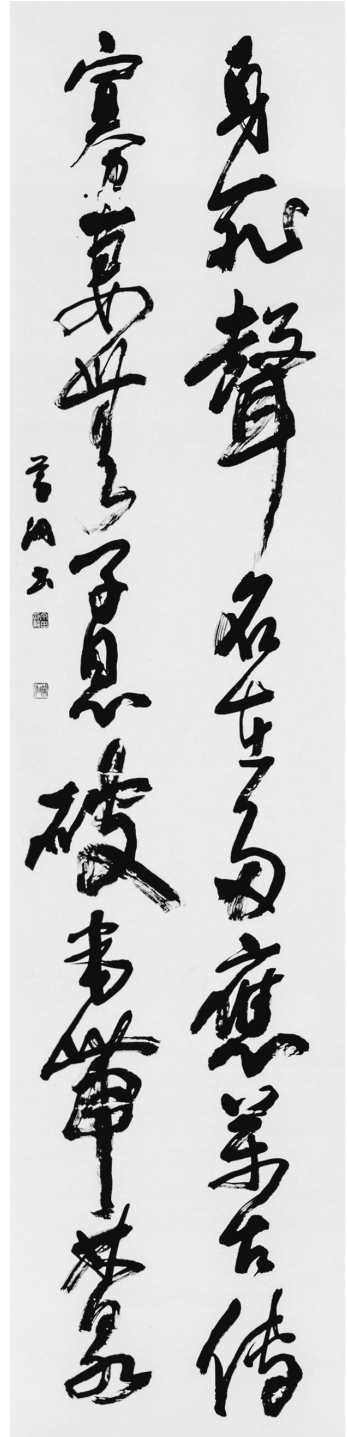
内閣総理大臣賞を受ける今田篤洞さん

この度は第39回産経国際書展に於きまして、内閣総理大臣賞という重い大きな賞を賜り誠にありがとうございました。身に余る光栄でただ感謝あるのみでございます。特別選考の先生方、新聞社の幹部、書会の先生方、所属する菽水書人社の皆さんのおかげと心から感謝申し上げます。

この内閣総理大臣賞は私の師匠である林錦洞先生が第20回展で受賞されており、師弟二代にわたっての受賞は感無量の思いであります。第1回産経国際書展より初代理事長林錦洞先生ご指導の下一貫して漢字伝統書を39年出品し続けると共に、師匠の指導の通り書会の仕事にも最優先で働かせていただいた賜物と受け止めています。ここ数年難病を患い思うような作品を出品できなかったのですが、今回の出品作は私の原点である多数字行草体を見つめ直して、2×8サイズに20文字を渾身の筆の動きで表現出来たと考えています。

今回の題材は、唐の詩人賈島^{かとう}が同じく唐の詩人孟郊^{もうこう}の死去にあたりその清廉な一生を讃えて哭したという五言絶句です。ここ数年難病を患い、細かな手先の筆づかいを避けて2×8サイズに4～5文字の作品を発表してきました。このままでは終われないと考えて思い切って本来の自分に戻った作品作りを目指しました。幸い今春3月4月は体調も良く思い切り書き込むことができました。結果私としてはこの10年間で最も気に入った作品に仕上がりました。その作品が今回の受賞に繋がり心底嬉しく思っております。

改めて産経国際書会と共に歩んできた私の書道人生に悔いはなく心から産経国際書会に感謝申し上げたいと思います。



「賈島 身死聲名在」

中国大使館文化部賞

後藤教子 常務理事

信じた道を一筋に



この度の中国大使館文化部賞を受賞との知らせに驚きと戸惑いを感じております。誠心社会長渡邊麗先生の的確な暖かい御指導のお陰と心から感謝申し上げます。故國井誠海師に入門を許され33年余、月日の流れは早いものと手を合わせました。



「大樹は…」

今回の作品「大樹は老いて神聖さを増す」月刊誠心誌の半切課題（麗会長の言葉）でした。「大樹」は故國井先生だと勝手に解釈しました。この世を去られて約十三年余、今でも見守っていて下さる事を痛感し感謝申し上げます。日々、漢字、仮名の古典を学び詩文書も、となると難儀な時もありますが、辛くもあり楽しくもあります。

このコロナ禍の中、毎日やる事がない、外に出られないと嘆いている方々の話を聞きますが、夢中になれる事がある幸せに感謝です。また、継続する大切さを痛感しております。産経国際書会の皆様、関係者の方々に感謝申し上げます。有難うございました。

韓国文化院長賞

今井翠泉 常務理事

三度の受賞に感謝



3Cの基本理念を掲げて発足した産経国際書展に参加し、今年で39回展を迎えました。その間、企画部、陳列部、搬出入部、審査部と様々な経験をさせて頂き勉強になりました。第7回展で大賞、第8回展で会長賞と遙か昔のことで賞のことなど頭のどこにもありませんでした。この度「韓国文化院長賞」を賜り、ただただ恐縮して

おります。ご苦勞の多いコロナ禍での審査、先生方、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

書作に当たり、木簡を長く勉強し発表して参りましたが、今年は行草体で何処か楽しく書いた作品でした。……で驚いております。

日本のルーツ韓国に興味があり、過去に「韓国歴史の旅」に参加しました。また3年前、韓国全羅北道ピエンナレ展に招待され交流した経験から、今回の「韓国文化院長賞」を何処か身近に感じ嬉しく思いました。

これまで、恩師、書友多くの皆様を支えられ今の自分があることを身に染みて感じております。ありがとうございます。



「無盡藏」

第 39 回 産経国際書展

受賞者 喜びの声 (敬称略)

モンゴル国大使館賞 近藤豊泉



この度モンゴル国大使館賞第一号にご推挙下さいました先生方に心より御礼申し上げます。長い書道人生は故印南溪龍、椎葉海嶽両先生の厳しくまた心篤いご指導を頂くと共に多くの人々のご支援の賜物と感謝の気持ちで一杯です。

産経国際書会会長賞 大西紫蓉



この度は、身に余る賞を賜り有難うございます。これも偏に、温かなご指導を下さる伊藤春魁先生、身近でいつも後押下さる先生方に、感謝申し上げます。これを励みに書の心に近づける様、日々研鑽を重ねてまいります。

産経国際書会理事長賞 荒井裕水



この度の第39回産経国際書展にて理事長賞をいただきましたが、まさか受賞するとは思っていませんでしたので驚きがなかなか消えませんでした。これもひとえに建部恭子先生はじめ諸先生方のおかげと感謝いたしております。

伊達政宗賞 木村翠川



この度の受賞、驚きと嬉しさで一杯です。これも偏に、故佐々木月花臨泉会会長、原田圭泉臨泉会代表、恩師の夏堀竹翠先生はじめ諸先生方のご指導のお蔭と心から御礼申し上げます。この賞を大きな励みに、更に精進して参りたいと思います。

外務大臣賞 佐那



この度の受賞、身に余る光栄であり感謝と感激でいっぱいです。日頃よりご指導をして下さる諸留大穹先生をはじめ諸先生方、筆を握る環境を作ってくれた家族に感謝しております。これからもより一層精進して参ります。

ペルー大使館友好賞 北川佳邑



平安時代の流麗な線質の仮名に憧れ、美しい料紙を自作でできればと願っていました。この度の受賞の喜びを教室で思いを共にしてきた皆様と分かち合い、また生き甲斐とさせて頂きます。誠にありがとうございました。

産経国際書会会長賞 矢崎藤香



この度は身に余る会長賞を頂き、大変光栄に存じます。構成・線質に悩まされながら、無我夢中で仕上げた作品です。今後は賞に恥じない様、書の基本の臨書を大切に、より一層精進して参りたいと思います。

産経国際書会会長賞 岩佐登花



今回、思い出に残る「わらべ歌」を選び、素朴に書こうと努めました。このような身に余る栄えある賞を頂けたことには驚くと共に身の引き締まる思いで御座います。今後更に精進致します。ありがとうございました。

国際大賞 渡邊正峰



思ってもいなかった賞を頂き誠に有難うございます。選考委員の先生方には心より深く感謝致しております。春風会の亡き宮崎春峰先生、会長宮崎春華先生、会員の方々にも心より御礼申し上げます。これからも楽しみながら精進していきたいと思っています。

文部科学大臣賞 大河原紫舟



身に余る賞を賜り、有難く光栄に存じます。これもひとえに心龍会村越会長、師匠刑部翠風先生はじめ諸先生方のご指導のお蔭と心より御礼申し上げます。日々感謝の気持ちを忘れずに、今後も一步一步精進して参ります。

産経大賞 松尾健太



栄誉ある産経大賞を頂けたことはひとえに日々支えて下さる、日本書蒼院理事長谷蒼涯先生をはじめ諸先生方のお蔭と深く感謝しております。今後とも書に対する見識を深めると共に、一層の技術向上、修練に励んでいきます。

第 39 回 産経国際書展受賞者 (敬称略)

高円宮賞

現代書部門 高頭 子 翠 (千葉県)

内閣総理大臣賞

漢字部門 今田 篤 洞 (東京都)

中国大使館 文化部賞

現代書部門 後藤 教子 (埼玉県)

産経国際書会 会長賞

漢字部門 矢崎 藤香 (山梨県)

かな部門 大西 紫蓉 (愛知県)

現代書部門 岩佐 登花 (宮城県)

韓国文化 院長賞

漢字部門 今井 翠泉 (埼玉県)

産経国際書会 理事長賞

現代書部門 荒井 裕水 (宮城県)

国際大賞

漢字部門 渡邊 正峰 (愛媛県)

ペルー大使館 友好賞

かな部門 北川 佳邑 (神奈川県)

モンゴル国 大使館賞

漢字部門 近藤 豊泉 (東京都)

伊達政宗賞

現代書部門 木村 翠川 (青森県)

文部科学大臣賞

漢字部門 大河原 紫舟

無鑑査会員特別奨励賞

漢字部門 佐子 恵鳳

漢字部門 中根 静流

漢字部門 山崎 佳秀

漢字部門 吉田 早織

漢字部門 吉田 悟

漢字部門 連 鈴然

かな部門 川口 志満子

現代書部門 有賀 瑚風

現代書部門 生原 凜々子

現代書部門 小祝 美鴻

現代書部門 阪田 佳凜

現代書部門 田中 眞由美

臨書部門 小山 鷺果

太宰府天満宮賞

漢字部門 山城 昂風

外務大臣賞

現代書部門 佐那

太田道灌やまぶき賞

漢字部門 小川 翠玉

漢字部門 村山 蛍泉

漢字部門 山崎 翠嵐

産経大賞

かな部門 松尾 健太

無鑑査会員奨励賞

漢字部門 鐘築 重治

漢字部門 桑 壽香

かな部門 鈴木 瑞

かな部門 渡邊 彩花

現代書部門 毛利 恵華

現代書部門 柳田 朋真

臨書部門 吉田 悟

産経準大賞

漢字部門 川渕 曉華

漢字部門 田中 秀穂

漢字部門 本山 鈴翠

かな部門 須田 紀泉

現代書部門 齋藤 雅貴

現代書部門 高津 佳代子

臨書部門 鈴木 雪華

会友特別賞

〈漢字部門〉	上田 秀曠	後藤 仙龍	新宮 紫菫	中野 璣恵	王 瑩
〈かな部門〉	野呂 トヨ子				
〈現代書部門〉	太田 昭華	大塚 白聲	小久保 撞文	杉浦 凜昇	三島 曉翠
〈臨書部門〉	栗原 昇蘭				

会友賞

〈漢字部門〉	新井 桃坡	一条 侑琴	今村 華綏	上田尾 桜香	尾上 琴舟	加藤 信和
	桜井 峰心	笹岡 慶鳳	塩澤 東江	澁谷 心水	白鷺 富州	杉浦 凜昇
	関 瑞泉	多田 鷺景	寺門 綾香	西川 遷石	東浦 曉舜	福田 悦子
	プラウツ京美	吉岡 松龍				
〈かな部門〉	安部 皓月	猪原 忍	岡坂 彩道	菊島 克月	北河 光春	佐田 楊苑
	品田 敦子	須崎 恵石	津田 玉華	中川 嶺泉	森川 泰泉	
〈現代書部門〉	足立 道代	島田 千速	藤内 久美子	中原 真紀	中村 玉蘭	藤井 優子
	増田 恵実子	町田 曠道	松下 加昇	松橋 艸路	山内 恵子	山口 翠婉
	山崎 恵萌	吉原 輝舟	米津 洋子	和田 悠粋	和根崎 真美	
〈臨書部門〉	三島 曉翠					

会友奨励賞

〈漢字部門〉	大森 水苑	近藤 子城	芹澤 利風
〈かな部門〉	武藤 久美子		
〈現代書部門〉	銭谷 佐智子		
〈臨書部門〉	高比良 和瑛		

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈現代書部門〉 石田 玲風

愛知県知事賞

〈漢字部門〉 渡瀬 大妻

中国大使館文化部特別賞

〈漢字部門〉 劉 繼剛

産経新聞社賞

〈漢字部門〉	魏 宇虹	長瀬 有里子
〈かな部門〉	鈴木 久江	
〈現代書部門〉	古川 聡美	山本 龍子
〈臨書部門〉	山口 彩苑	

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉	勝間田 宝泉
〈現代書部門〉	田中 瑛恵
〈臨書部門〉	乾 翠鳳

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉	斉藤 玉扇
〈かな部門〉	小松 るか
〈現代書部門〉	内田 陽子

国際賞

〈漢字部門〉 栗原 知津美

U23 大賞

〈漢字部門〉 鈴木 翔馬

U23 奨励賞

〈かな部門〉	小松 あゆ
〈現代書部門〉	佐伯 翔子

2022産経ジュニア書道コンクールを振り返って

お陰様で本展も昨年を上回る出品を頂きました。出品者の皆さんはもとよりご家族の皆様、全国各地において伝統芸術書道の発展に貢献されている諸先生のご教導の賜と衷心より敬意を表します。

展示会場は11,741点の展示となり、各展示室とも天地一杯でまさに壮観で来場者も驚きの様子で作品を探しておりました。

都美の講堂で開催された贈賞式は、本年もコロナに配慮して三部に分けられ実施されました。各部とも受賞者の緊張と喜びの顔が印象に残り、贈賞式開催の意義を改めて感じる事ができました。

本展を契機として、出品者の皆様には更に研鑽に努められ、来年が更に充実した書展になるよう共に学んでいきましょう。

最後に、御尽力賜りました審査員の諸先生、教育部委員、事務局の皆様には深甚なる感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。



実行委員会審査長
教育部担当副理事長
松崎龍翠

【審査長】松崎龍翠 【実行委員長】眞田朱燕

【審査員】石川溪舟、大段栄泉、岡田崇花、恩田峰道、影山瑤琴、勝田晃拓、河口美櫻、小池雅游、小谷美環、五戸光岳、佐々木天道、笹山紅樹、鈴木葉光、谷蒼涯、玉田子翠、殿村蒼園、長岡輝美、長谷川明扇、久田方琥、藤井玉暎、伏見香蘭、星野葉柳、蓑口草川、村田白葉、山口千夏、山地曉翠、渡邊祥華、渡辺龍泉

【実行委員】岡田崇花、小池雅游、今野美晁、笹山紅樹、鈴木葉光、高野彩雲、長谷川明扇、星野葉柳、宮平翠玲
(五十音順)



6月27日に行われた審査会



3年ぶりに行われた「うちに筆で字を書こう」



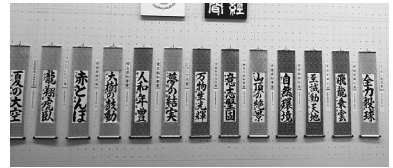
親子連れで賑わう会場

◎特別賞（中学生以下）

文部科学大臣賞	新保心菜（新潟県・新潟大学附属長岡中学校）
ジュニア大賞	梅田梨瑚（岡山県・倉敷市立玉島小学校）
東京都知事賞	中島有彩（東京都・江東区立第三砂町中学校）
神奈川県知事賞	井之上紗那（神奈川県・横浜市立日吉台中学校）
埼玉県知事賞	須永直美（埼玉県・行田市立見沼中学校）
千葉県知事賞	村木こころ（千葉県・柏市立手賀中学校）
産経新聞社賞	一本瑛哉（静岡県・浜松市立三方原中学校）
産経新聞社賞	畑中美春（大阪府・大阪狭山市立東小学校）
産経新聞社賞	横山龍桜（青森県・藤崎町立明德中学校）
産経新聞社賞	吉田愛梨（京都府・木津川市立木津第二中学校）
産経新聞社賞	中根綾香（茨城県・茨城町立青葉中学校）
産経新聞社賞	星野愛実（千葉県・成田市立加良部小学校）
産経国際書会理事長賞	岡田夏弥（東京都・江戸川区立上一色中学校）
産経国際書会理事長賞	堀田心彩（佐賀県・伊万里市立東山代小学校）
産経国際書会理事長賞	花野井愛香（千葉県・松戸市立馬橋北小学校）
フジテレビジョン賞	大曾根凜（千葉県・松戸市立第四中学校）
フジテレビジョン賞	渋谷日向里（新潟県・新潟大学附属長岡小学校）
ニッポン放送賞	國弘唯衣（千葉県・市原市立八幡小学校）
ニッポン放送賞	中村美月（福岡県・福岡市立鳥飼小学校）



東京都知事賞を受賞した中島有彩さん(右)



中学生以下の上位特別賞

◎ジュニア賞（中学生以下）

A部門

岡田姫依、浅野日向、石田遥菜、板井咲良、伊藤遥希、内田彩葉、梅ヶ枝優美香、梅沢咲希、大木愛、大森風花、岡本唯愛、荻野愛菜、奥山七夏美、尾瀬友昭、小園江光希、小田島花菜、小比賀俐心、角谷優希、鎌野璃衣、上村理世、川北彩乃、栗原仁菜、甲佐優実、古城奏来、古城青暉、小林明莉、小林愛実、笹谷理心、里居朋実、佐藤桃子、佐藤瑠南、鈴木琴美、高橋礼、高見澤里紗、谷井祐月、近松美悠、寺崎優空、鳥越史佳、中村栞、中村樹美、中村陽加、林菜月、引野実結、平野真愛、藤本陸玖、堀込紗愛、松本聡一郎、水島和奏、峯村颯介、宮澤尊、山口紗永、山下杏実、横山莉子、若林勇貴、渡邊昭真

B部門

伊藤愛莉、井上碧、入野太一、岩谷優衣菜、大塚陽菜、河口安寿、北村悠人、栗原陽莉、越川桜、小松崎蓮、櫻井美月、菅谷栞愛、高橋幸大、田邊心梨、成谷葵衣、萩原悠衣、林愛結、福家絆永、伏見果恋、藤本早織、星本京香、堀越緋乃、松田葉月、真鍋颯琉、山岸雪音、山田梨央、渡部菜々子

◎いきいき賞（中学生以下）

A部門

アヴェン秀士、伊藤友希菜、岩崎琳太郎、江川咲悠実、大谷咲来、奥井壱、小畑紗音、亀岡美緒、坂井萌彩、佐々木葉月、佐田杏奈、白田悠佳、関心優、曹宇軒、高木琴衣、高橋なな海、武田衣菜莉、田村春人、根岸咲友奈、濱田円、原逞真、広瀬月乃、藤澤遥乃、藤本芽瑠、堀心菜、前川結月、間蔵すみれ、町永聖奈、松井琳、松尾文都、松尾美明、村上月葵、八並樹平、山川愛琳、山田こはる、米澤大樹、若林由姫

B部門

相上知沙、安保優月、池内心美、岩城柊叶、岩本尚之、大石幸都、尾作実莉、川久保弥咲、河野翠里、久保愛佳、久保田莉永、栗原結栞、黒屋瑛介、古城心彩、五味大智、斉藤ひまり、佐塚結愛、芝山実沙、砂川優愛、高松由芽、滝美咲、銅山紗唯、遠井詩織、中井莉乃、西川葵、西沢旺祐、西村琴糸、平野瑞季、深川大輔、藤見透馬、美勢陸

◎特別賞（高校生）

産経新聞社賞	川口姫（静岡県・県立富士高等学校）
産経新聞社賞	高橋凜美（千葉県・中央学院高等学校）
産経新聞社賞	竹下弥良依（静岡県・県立浜松江之島高等学校）
産経新聞社賞	角田柚良（埼玉県・県立大宮光陵高等学校）
産経新聞社賞	山谷ひびき（青森県・県立五所川原高等学校）
産経国際書会理事長賞	中村心美（愛知県・県立津島高等学校）
産経国際書会理事長賞	須永暁聖（埼玉県・栄東高等学校）
国際友好賞	邱露（台湾・國立鳳新高級中學）

◎高校生奨励賞

A部門

太田康瑛、岡崎萌生、岡村紀杏、佐藤凜武、中田陽太、福田百那、丸山優衣、村上望華、村田優衣、吉原寧来

B部門

浅井菜々穂、阿部彩花、荒川華織、石黒佑華、大嶋えりか、小野小丸知、加藤綾奈、川合こころ、木内瑠那、近藤咲希、酒井大翔、佐藤美優、渋谷紅那、鈴木凜音、須永季香、高見優羽、谷口海那美、服部緒美、花見望乃佳、瀨上瑞紀、松浦ほのか、三谷琴音、吉田優来

第39回 産経国際書展“新春展”募集要項

開催要項(概要)

- 【名称】 第39回産経国際書展“新春展”
【主催】 産経新聞社 産経国際書会
【会期】 令和5年1月25日(水)～2月6日(月) 1月31日(火)は休館日
【会場】 国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
【入場料】 500円 (障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および学生は無料)

出品要項(概要)○搬入締切:令和4年11月18日(金)

《新春展Ⅰ》

- 【寸法】 タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。
全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。
篆刻、刻字、卷子・折帖作品は上記サイズ外。
- 【特典】 作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(希望者には5冊まで)
- 【搬入】 出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。
- 【出品料】 ①5万円＝産経国際書会の役員(最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員)
②3万円＝審査会員、無鑑査会員



第38回新春展Ⅱ展示風景

《新春展Ⅱ》公募部門

- 【出品資格】 満18歳以上(産経国際書会会友含む)
- 【寸法】 半切タテヨコ(135cm×35cm)、全紙2分の1(70cm×68cm)
※搬入は未表装で出品票に必要事項をご記入の上、産経国際書会事務局まで。
団体の場合は一括出品をお願い致します。出品作品はすべて展示します。
但し、規定寸法と異なる場合には展示できない場合がありますのでご注意ください。
- 【出品料】 2万円
- 【審査】 12月9日(金)
- 【賞】 会友の部: 会友奨励賞(賞状、副賞)、
公募の部: 産経新聞社賞(賞状、副賞)、
奨励賞(賞状、副賞)
- 【特典】 ①作品(半切タテのみ)を軸装にして返却します。(表装料は出品料に含まれています)
②産経新聞社賞受賞者が令和5年8月に行われる第40回記念産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。
- 【贈賞式】(予定) 令和5年2月2日(木)
午後4時～ 明治記念館
- 【作品送付先】 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区
港南台7-51-12 藤和額装(株)
TEL 045-833-5273

資料請求先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係
問い合わせは TEL 03-3275-8902 FAX 03-3275-8974 E-mail: shokai@sankei.co.jp

國藝書道院

坂本香心

國藝書道院は1976年(昭和51年)大日本書藝院、阿部翠竹先生を生涯の師と仰ぐ齋藤香坡会長が会を設立、競書誌「書道時代」を発足させた。

独立を機に香坡会長は、社中として会員の組織化、支部の統一等合理化に取り組み、また書家として台湾、韓国、中国等と精力的に活動の場を広げ、国内に於ても産経の重責を担い、個展にも情熱を傾けた。

現在、國藝書道院の主な活動として、「國藝書道院展」「21世紀国際書展」「学生展」「国際藝術家協会展」「神奈川代表展」「神奈川産経百選展」

齋藤香坡会長の主な経歴

1986年(昭和61年)「台湾香坡個展」(台北市社会教育会館)、同年「日中書蓋交流展」(台北・国父紀念館)※本院より13名同行。

1989年(平成元年)韓国ソウルにて「世界平和賞」を受賞。

1990年(平成2年)「日華書蓋交流展」※香坡作品が台北・国父紀念館に永久保存される。

1992年(平成4年)ミンダナオ大学客員教授に就任。

1995年(平成7年)個展「世界を翔る香坡の叙情展」(東京セントラル美術館)。

2000年(平成12年)上海大学客員教授に就任。

2001年(平成13年)産経国際書会理事長に就任。

2017年(平成29年)「文化庁長官賞」を受賞。

2021年(令和3年)「横浜文化賞」を受賞※34年振りに書家が表彰される。

2022年(令和4年)作品「楽壽」が横浜市役所に贈呈、感謝の贈呈式が5月10日に行われた。

今後も会長には、会員の育成と古典への意欲作を期待している。

「産経国際書展」「神奈川県民書展」「日中書蓋交流展」「中国との定期的な交流展」。

「書道時代」の中では、王鐸、褚遂良、于右任などの探求、日本では良寛や市川米庵などの作品を研究し、自身の投影を重んじ、真似をする事ではなく1日たりとも筆を休ませる事はなく追及している。その姿は人には見えない努力かもしれない。

長年に亘り、古典や伝統を重んじ、日々研鑽に励んでいる姿は何事にも妥協しない精神力で、現在も書芸術の貢献を惜しまない。



錬成会での指導



國藝展審査風景



学生展授賞式



伊豆下田での研修会

書展 トピックス

個展 片山澄男 書の世界Ⅱ

片山澄男

●会期 6月1日(水)～6月5日(日) ●会場 ゴールデンギャラリー(横浜)

“書の魅力を少しでも広め、発展に寄与したい”との思いから、古代文字を中心とする個展開催と拙作集の謹呈を行いました。「面白い」「書いてみたい」「五大宝蔵にはヒマラヤの迫力が感じられる(NHKヒマラヤ撮影隊の中島健郎様からのメッセージ)」等々のご賛同の言葉を賜り、深謝申し上げますとともに次回開催へ意を強く致しました。



中西 儷書展～書夏

中西 儷



●会期 6月11日(土)～6月19日(日) ●会場 ALAYA(いわき市小名浜)

風の時代をテーマに伝統書道作品に加え現代書、彩墨書、立体アート、オリジナルグッズなど新たな作品に挑戦し、約50点展示いたしました。カフェにて開催したこともあり、地元の若い方など幅広い年齢層の方々に書道に触れていただくことができました。また遠方からもご来場いただき盛況に開催できましたことを厚く御礼申し上げます。これからもより一層精進してまいります。

米国書道研究会創立57周年記念書展

生田博子

●会期 7月23日(土)～8月6日(土)
●会場 ロサンゼルス日米文化会館メインギャラリー

ロサンゼルス総領事館、国際交流基金文化センターその他の有力な諸団体の後援を得て「日本の書」をテーマに約100点を展示し、反響を呼び盛会裡に終了した。期間中は会員によって説明や実技の指導も行い次世代への継承も期待される。コロナ禍中であって久々に書を囲んで語る爽やかな会でした。



コロナ乗り越え3年ぶりに開催

翠香会書展

齊藤春欣



●会期 4月22日(金)～4月24日(日) ●会場 鳩居堂画廊(銀座)

鳩居堂画廊での書展は3回目です。コロナ感染拡大の状況下で急遽会期を3日間に変更しての開催は苦渋の決断でした。感染を考慮し地元の方々への案内は控えさせていただき不安を抱きながらの3日間でしたが、予想を越えたご来場者に安堵いたしました。書会事務局の皆様にもご来場いただき御礼申し上げます。会員一同の志気が上り一層団結して努力を重ねて行く所存です。

第47回鍾雲書道展覧会

大澤芳洲

●会期 5月21日(土)～5月22日(日) ●会場 寄居町中央公民館

コロナ禍が続く、不安と心配の中ではありませんでしたが、会場の変更、作品規格や審査方法も見直しを行い、感染防止対策に万全を期し開催しました。出品数は前回よりも少し減少しましたが、500名を上回る来場者、産経書会から山口事務局次長の御来観、御指導もいただきました。コロナが一日も早く完全収束し、次回展が盛会に開催できるよう精進してまいります。





第12回青成会書展

早坂喜伊

●会期 6月2日(木)～6月5日(日) ●会場 大黒屋ギャラリー(銀座)

コロナ禍で3年ぶりの開催となりました。詩文作を中心に漢字、少字数書とバラエティ豊かな書展となりました。この日を待ちかねたかのように大勢の来場者で賑わい、特に初日は産経展の審査会を終えられた先生方のご来場には一同心より感謝申し上げます。

第56回書峰展

●会期 6月25日(土)～6月26日(日) ●会場 秩父じばさんセンター

田島青谷

新型コロナウイルスのニュースが落ち着いたと思えば、入れ替わるようにして、ロシアのウクライナ侵攻のニュースが連日伝えられ、悲惨な映像を目にし、心が痛む昨今です。今回の「書峰展」は3年ぶりに開催することが出来、大変嬉しく思っております。会員の方々が待ちに待った「書峰展」とあって力作揃い。中でも、特別企画として、後進の育成を目的に、前年度現日書展学生部に出品、上位入賞した作品を併催したこともあり、入場者も千百名を超える方々にご来場いただき、予想以上の盛況でした。



アラカルト

神奈川の書碑探訪「書のある散歩道～かながわ～」発売！

昨年末から、書会の社中展などの取材をし、産経ニュースのWEBサイトに記事掲載する書評論家の川浪倬史さんが平成29年から令和3年まで産経新聞神奈川版に連載した「書のある散歩道～かながわ～」がこのたび書籍化されました(天来書院より、定価2200円)。本書は、神奈川県下にある書碑を著者が実際に訪ね歩いた記録で、著名な書家の書籍から歴史に埋もれた書き手の能書まで、江戸から近代の漢文碑を中心に、300余りの碑を掲載。ぜひ、一読ください。(事務局)



各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和4年10月～令和5年1月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第35回研友社展	10月6日(木)～10月9日(日)	銀座かねまつホール	研友社	金丸鬼山
明扇書藝會 第10回記念書道発表会	10月7日(金)～10月10日(月・祝)	長野県立美術館	明扇書藝會	長谷川明扇
第72回公募洸風会書道展	10月8日(土)～10月10日(月・祝)	熊谷市中央公民館大ホール	洸風会	岩下鳳堂
第28回龍峽書道会蘭契展	10月11日(火)～10月16日(日)	銀座鳩居堂画廊	龍峽書道会	林 龍成
福山城築城400年記念協賛 土筆会第50回書道展	10月12日(水)～10月16日(日)	ふくやま美術館 シティホール	土筆会	上村陽香
第37回日本総合書作院展	10月13日(木)～10月16日(日)	堺市立文化館 堺アルフォンス・ミュージアム	日本総合書作院	篠原秀朋
第32回書心会書展	10月14日(金)～10月16日(日)	所沢市民文化センター(ミュージズ)	書心会	加藤深流
第51回千墨書道展	10月19日(水)～10月24日(月)	品川区民ギャラリー	千墨書道会	近藤豊泉
第47回煌心同人書展	10月20日(木)～10月23日(日)	銀座かねまつホール	煌心書道会	松崎龍翠
第8回方琥書院書画展	10月27日(木)～11月1日(火)	茨木市立ギャラリー	方琥書院	久田方琥
第68回あしで會選抜書作展	10月28日(金)～10月30日(日)	尼崎市総合文化センター 美術ホール5階	あしで會	今口篤外
第54回一煌会書展	10月28日(金)～10月30日(日)	銀座洋協ホール	一煌会	石川天瓦
高頭子翠書作展	11月1日(火)～11月6日(日)	銀座鳩居堂画廊	竹翠会	高頭子翠
第39回視田社書展	11月4日(金)～11月9日(水)	高新画廊	視田社	橘 黄華
書・墨・アート Vol.13 渡邊麗展	11月8日(火)～12月4日(日)	座・高円寺(杉並芸術会館)	誠心社	渡邊 麗
尚友会2022書展	11月10日(木)～11月13日(日)	しずぎんギャラリー[四季]	尚友会	小杉修史
第32回遊心書道会展	11月11日(金)～11月13日(日)	広島県民文化センター	遊心書道会	大庭清峰
第39回記念CMO展・近畿席書大会	11月12日(土)～11月13日(日)	藤井寺市民総合会館	書融会	正川子葉
第27回秋桜会書展	11月15日(火)～11月20日(日)	銀座大黒屋ギャラリー	秋桜会	鎌田悠紀子
全国公募 日輝会	11月18日(金)～11月24日(木)	東京都美術館	日輝会美術協会	石井理春
第35回日書美展/併催学生公募展	11月19日(土)～11月20日(日)	南海浪切ホール	日本書芸美術院	中塚龍華(事務局)
第41回東西書展	11月23日(水・祝)～11月27日(日)	日本橋好文画廊	東西書芸会	鈴木曉昇
第26回東華役員展	12月6日(火)～12月11日(日)	ギャラリー向日葵	東華書院	齊藤華秀
心芸墨美作家協会2022選抜展	12月13日(火)～12月18日(日)	セントラルミュージアム銀座	心芸墨美作家協会	岩浅写心
第17回埼玉県書作家連盟展	12月16日(金)～12月18日(日)	所沢市民文化センター(ミュージズ)	埼玉県書作家協会	谷 蒼涯
Group F 2022展 Vol.6 京都展	12月16日(金)～12月18日(日)	大徳寺黄梅院(京都府)	Group F	諸留大穹 一色白泉(事務局)
第39回雅涎会書展	2023年1月6日(金)～1月11日(水)	有楽町朝日ギャラリー	雅涎会	

追悼

次の先生が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

審査会員 尾関 陶山(令和4年9月) 無鑑査 佐俣 祥苑(令和4年7月)

編集後記

コロナの収束もならないうちに秋を迎えました。6月には早々と梅雨が明け、その後に梅雨空の続く日々には気候変化の激しさは、地球に異常が起きているのかと思う程です。

そんな中で第39回展の審査が行われ、皆様の真剣でなおそれ以上に清々しい雰囲気を感じた時に産経はどんな事があるかと大丈夫と心強く感じました。

この猛暑のなかで第39回産経国際書展が東京都美術館で開催され、テープカットには多くの方々が御来場下さり熱い思いと回を重ねるごとに作品の確かな力量を感じさせる作品群とがマッチして素晴らしいひとときでした。

第39回展の各賞を受賞された先生方、誠におめでとうございます。ますますの御健筆で御指導、育成にご活躍されますように心より願っております。

高円宮妃久子殿下のご臨席を賜り贈賞式の尊厳に満ちた会場に多くの方々が御参加下さいました。同じ日程、会場で開催された産経ジュニア書道コンクールは年を追うごとに盛況を極め、本年は11,741点の出品があり、将来の産経展を担うであろう子どもたちに期待と活気を肌で感じました。

書展はこれから地方に舞台を移します。地方と一体化を感じられる開催、心よりご盛況をお祈り申し上げます。これからも会員皆様の温かいお気持ちでますます書会を盛り上げてまいりましょう。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行 令和4年9月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

http://sankei-shokai.jp/

https://www.facebook.com/sankeishokai

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。